野田市を縦断する

日光東往還

日光東往還は、市内を南北に縦断する街道で、流山市から通じる県道松戸野田線と重なりながら野田市内に入り、梅郷駅入口交差点から市役所方面へ進みます。

市役所の前を通り、吉春地先で国道16号を東側に横断した街道は、ゴルフ場の西側に沿って北上し、国道の西側に戻ります。

さらに進むと、県道結城野田線に合流し、中里交差点で三度、国道を渡る街道は、ゴルフ場の敷地内を通り、再び県道と合流し、北上を続けます。

県道とともに関宿地域を進み、いちいのホール付近から江戸川河川敷に出る街道は、親野井付近から県道に戻りますが、再び新田戸付近から県道と分かれ、はやま工業団地や関宿元町を抜けて、関宿橋に向います。

関宿橋からは、県道境杉戸線とほぼ重なるように進み、再び県道結城野田線と合流後、博物館入口交差点から県道と分かれて北上し、利根川河川敷で「境の渡し」に到着します。

1 往還最初の宿場「山崎」

水戸街道の小金宿から北に三里二十七町（約15キロメートル）のところに、往還の最初の宿場「山崎宿」があります。

現在の東武野田線梅郷駅の近くで、江戸時代には、30数戸の家があったそうです。

山崎宿には、大名や旗本役人が宿泊する常設の本陣がなく、そのつど、名主や問屋などの協議によって本陣・脇本陣を定めていたそうです。

現在は、「宿（しゅく）」「宿里（しゅくざと）」などの地名や常夜灯（前面参照）に名残をとどめるほかは、宿場の雰囲気を残すものはほとんど残っていません。

山崎宿を出た往還は、花井、中根、宮崎、市役所の前を通り、二里十一町（約10キロメートル）先の「中里宿」に向かいます。

2 市役所前には牧の跡が

江戸時代には、幕府が御用馬や民間の輸送・農耕用の馬を生産していた「庄内牧（しょうないまき）」と呼ばれる野馬の放牧場が野田地方にありました。

今でも牧場の名残を残す「野馬除土手（のまよけどて）」を市役所前の往還沿いに見ることができます。「野馬除土手」は、牧と隣接する村との境界として、また、野馬から田や畑を守ることを目的として築かれたものです。

3 往還二番目の宿場「中里」

往還2番目の宿場「中里宿」は、山崎宿よりも規模が大きく、往時には、宿場の通りに百戸近くの家があ